

国民の皆様は、福島原発について御報告をいたしたいと思ひます。是非、冷静にお聞きをいたしたいと思ひます。

福島原発については、これまでも説明をしてきましたように、地震、津波により原子炉が停止をし、本来なら非常用として冷却装置を動かすはずのディーゼルエンジンがすべて稼働しない状態になっております。この間、あらゆる手だてを使って原子炉の冷却に努めてまいりました。しかし、1号機、3号機の水素の発生による水素爆発に続き、4号機においても火災が発生し、周囲に漏洩している放射能、この濃度がかなり高くなっております。今後、さらなる放射性物質の漏洩の危険が高まっております。

つひては、改めて福島第1原子力発電所から20kmの範囲は、既に大半の方は避難済みでありますけれども、この範囲に住んでおられる皆さんには全員、その範囲の外に避難をいただくことが必要だと考えております。また、20km以上30kmの範囲の皆さんには、今後の原子炉の状況を勘案しますと、外出をしないで、自宅や事務所など屋内に待機するようにしていただきたい。そして、福島第2原子力発電所については、既に10km圏内の避難はほぼ終わっておりますけれども、すべての皆さんがこの範囲から避難を完全にされることをお願い申し上げます。

現在、これ以上の爆発や、あるいは放射性物質の漏洩が出ないように現在全力を尽くしております。特に東電始め関係者の皆さんには、原子炉への注水といったことについて、危険を顧みず、今も全力を挙げて取り組んでいただいております。そういった意味で、何とかこれ以上の漏洩の拡大を防ぐことができるように全力を挙げて取り組んでまいりますので、国民の皆様には、大変御心配はおかけいたしますけれども、冷静に行動をしていただくよう心からお願いを申し上げます。

以上、国民の皆さんへの私からのお願いとさせていただきます。

【質疑応答】

(記者) 総理、2号機への言及がありませんけれども、2号機はもっと深刻な事態なのではないでしょうか。
(菅総理) 今、申し上げましたように、何号機ということ等について、いろんな現象がありますので、全体を見て現在対応していますので、そういった意味で一つひとつがどうだという話は、場合によってはまた別の機会に東電の方から報告をすると、こういうふう認識しております。

平成 23 年 3 月 15 日 11:07 ~ 官房長官記者発表

東京電力福島第1原子力発電所第4号炉について

それでは、総理からの発言に続きまして、私(官房長官)の方から若干申し上げたいと思ひます。今朝ほど来の、前回、私がここで会見をさせていただいた以降の主な生じている事象について、まずは御報告を申し上げます。なお、詳細な時間・数値等については、これは正確なものを東京電力において発表をさせるようにいたしたいと思ひますので、全体の大きな流れ、状況について、私(官房長官)の方から御説明をさせていただきます。

1つは、4号炉についてでございます。4号炉については、現在、火災が生じているという状況でございます。こちらの原子炉は、震災発生時において休止中の原子炉でございました。しかしながら、この間の流れの中で、炉そのものには、いわゆる燃料等はございませんが、使用済み核燃料がこの大きな意味での4号炉の中にございまして、そちらがこの間の経緯の中で熱を持って、そして、そこから水素が発生をして、いわゆる

水素の爆発、これまで1号機、3号機等で生じてきたような事象が起こったものと推察をされております。現在、燃えておりますのは、その1号炉と3号炉の場合は上空まっすぐに吹き飛んだものが内側に崩れたといえますか、燃えているという状況であると推察をいたしているところでございます。なお、念のためでございますが、核燃料そのものが、いわゆる火災になるということはございませんので、この点は是非とも御理解をいただきたいと思っております。その結果としては、水素が出ている状態でありましたから、同時に放射性物質もその時点から排出をされていたものと思われませんが、全体が建屋で覆われている状況ではなくなりましたので、これが大気中に出ているという状況になっております。何とか火災を早期に消火をし、あるいは鎮火をし、その上でこの使用済み核燃料の冷却を進めることで、事態を収束させたいと考えているところであります。

一方、2号炉の方で「ボン」というような音がしたという事態が生じました。その方が時間的には30分程度遅れた6時半過ぎだったかと記憶をしておりますが、これは従来から申し上げておりましたが、2号炉については上空に穴も開いておりましたので、少なくとも大きな水素の爆発の起こる可能性は低いということを上申上げてまいりました。そうした中でありますが、小規模の水素の爆発が起こったか、何らかの爆発的事象が起こり、その結果として、これは朝の時点の丁度会見で御報告を申し上げたような圧力部分の一部が若干の破損をしたのではないかと考えられております。ここから若干の放射性物質が気体として流出をしていることが推察をされている状況でございます。2号炉から煙が若干見えるというような報告もございますが、これは先ほど私が御説明をした欠損のあると思われる部分が、水と水蒸気の交換をする部分でございますので、ここから水蒸気が出ているものと推測をいたしております。

こうした状況の中、現在、少なくとも、この会見にまいります直前の情報として、1号機、2号機、3号機とも注水作業を継続いたしております。今のところ、順調に3つの原子炉とも注水が進んでおまして、冷却の効果が生じているものと思われませんが、こうした状態をどうやって維持していくのかということが、4号機との関係で、今、早急に取り組まなければならない、取り組んでいる課題でございます。放射性物質、放射性濃度の状況でございますが、若干時間が経っておりますが、10時22分時点のモニタリングの結果として、2号機と3号機の間で30mSv/h、3号機付近で400mSv/h、4号機付近で100mSv/hがそれぞれモニタリングの結果として出ております。従来の「 μ 」と単位が1つ違っております。従来の数値と異なりまして、身体に影響を及ぼす可能性のある数値であることは間違いありません。なお、是非冷静に受け止めていただきたいのは、これはまさに放出がされていると思われる部分近くの数値でございますので、距離が遠ければ遠いほど、この数値は落ちていくというものでございます。こうした状況の中でございますので、こうした事象の生じているプロセス、6時台の時点で、当該周辺におられた職員800名のうち、注水要員の50名を残し、一旦退避をいたしておりますが、先ほど申しましたとおり、この会見に下りてくる時点で、注水作業を続けているという報告を受けているところでございます。

こうした残念な状況、国民の皆さんに大変御心配をおかけする状況となっておりますが、こうした事態にも備えて、20km圏内からの退避をこれまでお願いしてまいりました。更に、実際にこうした事態に陥りましたことから、更に万全を期す観点から、総理から御報告いたしましたとおり、20~30kmの圏内にいらっしゃる皆さんには、外出することなく、建物など内部にいていただきたいということをお願い申し上げます。是非その折には窓を閉めていただき、機密性を高めていただきたい。換気はしないでいただきたい。洗濯物は屋内に干していただきたい。先ほど申しましたとおり、距離が遠くなれば、それだけ放射性物質の濃度は低くなってまいります。20kmを超える地点では、相当程度薄まって、身体への影響が小さい、あるいはない程度になっていることが想定されておりますが、万が一にも備え、なおかつ、こうしたものは気象条件にも影響されますことから、こうした圏内の皆様には、こうした大気にできるだけ触れることのないよう、屋内等におられることをお願いする次第でございます。